

会師市小牧市

醫師

藤澤 正昭

# 女性のクラミジア感染症

クラミジア感染症はSTD (sexually transmitted disease=性感染症)のひとつで、近年このクラミジアの感染者は男女とも増加の傾向にあり、特に女性では淋菌感染者の数を追いついておられます。

クラミジアはふつこの細菌より小さいが、ウイルスよりも大きくて、生きた細胞内で増えていく寄生体であります。クラミ

## 抗生剤の服用が治療に有効

ジアには四種類ありますが、ヒトからヒトに伝播するのはクラミジア・トラコマティスといえます。潜伏期間は約二週間くらいで、大半はこれといった自覚症状はありません(無症候性感染)。時におりものがふえたり、下腹部の痛みを伴うこともあります。妊娠している女性にクラミジアがかなり高い率で発見されて

おります。赤ちゃんが胎内にいるときに産道でクラミジアに感染すると、生まれてから結膜炎、肺炎、咽頭炎などにかかったりします。クラミジアの産道の感染は前期破水の誘因となり、体重の低い赤ちゃんの出生につながっていくともいわれております。

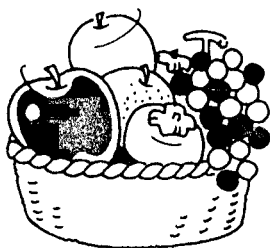
膣から子宮、卵管へとクラミジアの感染がのぼっていき、骨

盤腔内までに炎症が広がりますと不妊症の原因となることがあります。

検査は簡便な方法があり、短時間で済みますので産婦人科で積極的に検査を受けることをおすすめします。

治療には抗生剤の服用が有効です。なお、治療後は再検査をして、クラミジアの陰性化を確認することが必要です。

クラミジア感染者のうち、十代後半と二十代前半の若い女性の感染率は三〇〜四〇%と大変高い数字を示しており、将来、不妊症や母子感染の危険に結びつくものと思われれます。また「クラミジアにかかっているとエイズにかかりやすい」と言われております。エイズ撲滅のためにも、まず男女のクラミジア感染症の予防と治療が緊要であります。



お問合せは、苦小牧市医師会  
電話 33-4720へ